それで今日まで、日本なり又外國なりで發見して居ります所の佛典の種類は隨分多くありまして、今一々此處に擧げるのは無用のことゝ存じますが、私の知つて居りますだけでも、何の經であるかと云ふことの明かに分つて發表されて居るものが十數種に達して居ります、中には漢譯の佛典の中に無くて、ウイグル文の佛典の方にだけあるものも見えて居ります、しかし今殘つて居るのは多くは細かい斷片になつて現はれるのでありまして、中には故意に裂いたものと思はれるのも澤山あります、或はマホメット教との關係から故意に裂いたものもあるかも知れませぬが、兎に角完全に殘つて居るのは極少いものであります、自分の今迄に見たものゝ中で、最も長い、最も完全なものは本願寺にあります八陽神呪經で、今日原本を持つて來る筈でございましたが、少し都合があつて持參することが出來ませぬでした、それは四百何十行と云ふので、此處にあります寫眞で十二枚ばかりになつて居ります。

さて此ウイグル佛典は、何處の國の佛典から飜譯したものであるかと云ふことを考へて見なければならぬのでございますが、今日に存するものに就て考へると飜譯したのが大部分のやうであります、しかしながらまた別にトカラ語のものから飜譯したと云ふ奥書の見えて居るのもありますから、彼等は諸國の言葉から飜譯した佛典を有つて居つたものと考へられます。

今進んで二三佛典の內容に付て御話して見ますと、ウイグルの佛教には波斯の宗教の混入した痕が殘つて居ります、卽ちイランの宗教をば印度の佛教に加へて信じて居つたものゝやうに思はれます、其事は曾て佛蘭西の學者なども言ふて居ることでありますが[16]、例を擧げて見ますと、彼の梵天のことをウイグルの佛典ではエヅルアと云ひ、それから帝釋天のことをばホルムヅタと申して居ります、それは此の八陽神呪經の中にも所々に出て居ります、此の